

大学番号：私128

[平成20年度設置]

計画の区分：学部の設置

届出

東京成徳大学 応用心理学部

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 東京成徳学園
平成23年5月1日現在

- (注) 1 「計画の区分」は届出時の基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
届出時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には届出時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部
(□□学部)
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。
- 3 大学番号の欄については、平成23年3月11日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 東京成徳学園

(2) 大学名

東京成徳大学

(3) 大学の位置

〒276-0013
千葉県八千代市保品字中台谷2014番

- (注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	届出時	変更状況	備考
理事長	(キウチ ヒデトシ) 木内 秀俊 (平成17年9月)		
学長	(キウチ ヒデトシ) 木内 秀俊 (平成17年9月)		
学部長	(イチムラ ソウイチ) 市村 操一 (平成20年4月)	(カイホ ヒロユキ) 海保 博之 (平成21年4月)	届出時の研究科長の死去に伴い、市村操一が研究科長に就任。応用心理学部長には健康・スポーツ心理学科長 海保博之が就任(21)
福祉心理学科長	(カイホ ヒロユキ) 海保 博之 (平成20年4月)	(ミヤモト フミオ) 宮本 文雄 (平成21年4月)	平成21年度開設の健康・スポーツ心理学科へ異動に伴う変更(21)
臨床心理学科長	(イチムラ ソウイチ) 市村 操一 (平成20年4月)	(アライ クニジロウ) 新井 邦二郎 (平成23年4月) (コバヤシ アツコ) 小林 厚子 (平成21年4月)	前学科長の任期満了に伴う変更(23) 平成21年度開設の健康・スポーツ心理学科へ異動に伴う変更(21)

- (注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例)平成20年度に報告済の内容 → (20)
平成23年度に報告する内容 → (23)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。
 ・ 様式は, 平成20年度開設の4年制の学科の場合(平成23年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備 考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
応用心理学部 福祉心理学科 学士(福祉心理学)	4年	70人	3年次 5人	290人	入学定員:70→50(平成21年4月) 編入学定員:5→3(平成23年4月) 報告年度 平成21年度 平成21年度開設の健康・スポーツ 心理学科へ定員を振替えた。
臨床心理学科 学士(臨床心理学)	4年	70人	5人	290人	編入学定員:5→3(平成23年4月) 報告年度 平成21年度 平成21年度開設の健康・スポーツ 心理学科へ定員を振替えた。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

<応用心理学部福祉心理学科>

区分	対象年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平均入学定員 超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	70 (-) [-]	-	50 (-) [-]	-	50 (5) [-]	-	50 (3) [-]	-	0.64倍			
志願者数	56 (-) [3]	- (-) [-]	35 (-) [-]	- (-) [-]	53 (-) [-]	- (-) [-]	52 (2) [1]	- (-) [-]				
受験者数	55 (-) [3]	- (-) [-]	35 (-) [-]	- (-) [-]	50 (-) [-]	- (-) [-]	50 (2) [1]	- (-) [-]				
合格者数	54 (-) [3]	- (-) [-]	35 (-) [-]	- (-) [-]	50 (-) [-]	- (-) [-]	48 (1) [1]	- (-) [-]				
B 入学者数	42 (-) [3]	- (-) [-]	28 (-) [-]	- (-) [-]	37 (-) [-]	- (-) [-]	34 (1) [1]	- (-) [-]				
入学定員超過率 B/A	0.60		0.56		0.74		0.68					

<応用心理学部臨床心理学科>

区分	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人 70 (-) [-]	人 -	人 70 (-) [-]	人 -	人 70 (5) [-]	人 -	人 70 (3) [-]	人 -	1.14倍	
志願者数	118 (-) [2]	- (-) [-]	130 (-) [5]	- (-) [-]	192 (1) [3]	- (-) [-]	135 (1) [3]	- (-) [-]		
受験者数	111 (-) [2]	- (-) [-]	127 (-) [5]	- (-) [-]	188 (1) [2]	- (-) [-]	129 (1) [3]	- (-) [-]		
合格者数	101 (-) [2]	- (-) [-]	120 (-) [3]	- (-) [-]	105 (1) [2]	- (-) [-]	123 (1) [3]	- (-) [-]		
B 入学者数	79 (-) [2]	- (-) [-]	78 (-) [2]	- (-) [-]	90 (1) [1]	- (-) [-]	74 (1) [2]	- (-) [-]		
入学定員超過率 B/A	1.12		1.11		1.28		1.05			

- (注) ・ () 内には、編入学の状況について**外数**で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「平成23年度」には、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。
- ・ 「平成20～22年度」には、確定した数値を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

<応用心理学部福祉心理学科>

学年	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[3] 42	[-] -	[-] 28	[-] -	[-] 37	[-] -	[1] 34	[-] -	平成21年度 2年次、再入学 1名(21)
2年次	/		[4] 43	[-] -	[-] 27	[-] -	[-] 34	[-] -	
3年次	/		/		[2] 39	[-] -	[-] 27	[-] -	
4年次	/		/		/		[2] 36	[-] -	
計	[3] 42		[4] 71		[2] 103		[3] 131		

<応用心理学部臨床心理学科>

学 年	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[2] 79	[-] -	[2] 78	[-] -	[1] 90	[-] -	[2] 74	[-] -	平成22年度 2年次、応用心理学部健康・スポーツ心理学科から転学科1名(22)
2年次	/		[2] 77	[-] -	[2] 78	[-] -	[1] 87	[-] -	
3年次	/		/		[2] 73	[-] -	[2] 73	[-] -	
4年次	/		/		/		[2] 73	[-] -	
計	[2] 79		[4] 155		[5] 241		[7] 307		

- (注) ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ 「平成23年度」には、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。
 - ・ 「平成20～22年度」には、確定した数値を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況
(応用心理学部福祉心理学科)

区分 対象年度	退学者数 (a)	在学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a/b)
平成20年度 (平成20年4月1日～ 平成21年3月31日)	計 [0]	(累積)計 [3]	0.0%
	うち平成20年度入学者 0人	うち平成20年度 42人	
	(主な退学理由)		
平成21年度 (平成21年4月1日～ 平成22年3月31日)	計 [2]	(累積)計 [4]	4.2%
	うち平成20年度入学者 3人	うち平成20年度 43人	
	うち平成21年度入学者 0人	うち平成21年度 28人	
	(主な退学理由) ・家庭の事情 1名 ・その他(音楽活動に専念) 1名 ・除籍 1名		
平成22年度 (平成22年4月1日～ 平成23年3月31日)	計 [0]	(累積)計 [2]	3.8%
	うち平成20年度入学者 3人	うち平成20年度 40人	
	うち平成21年度入学者 1人	うち平成21年度 28人	
	うち平成22年度入学者 0人	うち平成22年度 37人	
	(主な退学理由) ・学生個人の心身に関する事情 1名 ・就職 1名 ・除籍 2名		
平成23年度 (平成23年4月1日～ 平成24年3月31日)	計 [0]	(累積)計 [3]	3.7%
	うち平成20年度入学者 1人	うち平成20年度 37人	
	うち平成21年度入学者 1人	うち平成21年度 27人	
	うち平成22年度入学者 3人	うち平成22年度 37人	
	うち平成23年度入学者 0人	うち平成23年度 34人	
	(主な退学理由) ・就学意欲の喪失 1名 ・他の教育機関への入学・転学 1名 ・就職 1名 ・除籍 2名		

※平成21年度・・・平成20年度入学者には再入学(外国人留学生)1名を含む。

(応用心理学部臨床心理学科)

区分 対象年度	退学者数 (a)	在学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a/b)
平成20年度 (平成20年4月1日～ 平成21年3月31日)	計 [0]	(累積)計 [2]	2.5%
	うち平成20年度入学者 2人	うち平成20年度 79人	
	(主な退学理由) ・就職 1名 ・学生個人の心身に関する事情 1名		
平成21年度 (平成21年4月1日～ 平成22年3月31日)	計 [0]	(累積)計 [4]	2.6%
	うち平成20年度入学者 3人	うち平成20年度 77人	
	うち平成21年度入学者 1人	うち平成21年度 78人	
(主な退学理由) ・他の教育機関への入学・転学 1名 ・学生個人の心身に関する事情 1名 ・家庭の事情 1名 ・除籍 1名			
平成22年度 (平成22年4月1日～ 平成23年3月31日)	計 [0]	(累積)計 [5]	3.7%
	うち平成20年度入学者 1人	うち平成20年度 74人	
	うち平成21年度入学者 6人	うち平成21年度 78人	
うち平成22年度入学者 2人	うち平成22年度 90人		
(主な退学理由) ・他の教育機関への入学・転学 2名 ・学生個人の心身に関する事情 5名 ・除籍 2名			
平成23年度 (平成23年4月1日～ 平成24年3月31日)	計 [0]	(累積)計 [7]	0.7%
	うち平成20年度入学者 1人	うち平成20年度 73人	
	うち平成21年度入学者 0人	うち平成21年度 72人	
うち平成22年度入学者 1人	うち平成22年度 88人		
うち平成23年度入学者 0人	うち平成23年度 74人		
(主な退学理由) ・学生個人の心身に関する事情 1名 ・除籍 1名			

※平成22年度・・・平成21年度入学者には、転学科1名を含む。

(注)・各年度の退学者数・在学者数については、該当年度間(例えば、平成22年度であれば、平成22年4月1日から平成23年3月末まで)の状況を記載してください。また、数字については確定した数値を記入してください。

- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度における退学者数】を、【当該対象年度の入学者数+当該対象年度(前年度までの確定した入学者数)で除した割合(%)】を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。なお、参考までに例示を添付しますので、そちらをご参照ください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。
 - ・就学意欲の低下
 - ・学力不足
 - ・他の教育機関への入学・転学
 - ・海外留学
 - ・就職
 - ・学生個人の心身に関する事情
 - ・家庭の事情
 - ・除籍
 - ・その他

2 授業科目の概要

<応用心理学部 福祉心理学科>

(1) 授業科目表

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基 礎 教 養 科 目 領 域	キャリアデザイン	1・2・3・4	2									
	基礎演習	1・2・3・4	2			1						
	ディベート	1・2・3・4	2			1						
	文章表現法	1・2・3・4	2									
	情報入門Ⅰ	1・2・3・4	2									
	情報入門Ⅱ	1・2・3・4	2			1						
	福祉心理学入門	1・2・3・4	2			+	+					※専任教員の異動による変更(21)。 異動先:「健康・スポーツ心理学科」 (平成21年度開設)、以下「※」印
	英語会話	1・2・3・4	2									
	総合英語	2・3・4	2									
	フィットネス	1・2・3・4	1									「福祉心理学入門」 学科専任教員へ担当者を変更(22) 担当 今中博章(准教授)
	哲学A(人間と社会)	1・2・3・4	2	2								
	哲学B(人間と自然)	1・2・3・4	2	2								
	文学A(日本)	1・2・3・4	2	2								
	文学B(世界)	1・2・3・4	2	2								
	芸術学A(前近代)	1・2・3・4	2	2								
	芸術学B(近現代)	1・2・3・4	2	2								
	政治学A(政治の制度と思想)	1・2・3・4	2	2								
	政治学B(現代日本の政治)	1・2・3・4	2	2								
	法学A(法とは何か)	1・2・3・4	2	2								
	法学B(法の体系)	1・2・3・4	2	2								
	経済学A(基礎)	1・2・3・4	2	2								
	経済学B(応用)	1・2・3・4	2	2								
	社会学A(社会学の基礎理論)	1・2・3・4	2	2								
	社会学B(現代日本の社会)	1・2・3・4	2	2								
	人文地理A(日本)	1・2・3・4	2	2								
	人文地理B(世界)	1・2・3・4	2	2								
	心理学A(基礎心理)	1・2・3・4	2	2								
	心理学B(臨床心理)	1・2・3・4	2	2								
	環境科学	1・2・3・4	2	2								
	自然科学入門	1・2・3・4	2	2								
	情報演習A(情報発信)	1・2・3・4	2	2								
	健康科学	1・2・3・4	2	2								
	健康スポーツ	1・2・3・4	1	1								
	現代倫理学A(生命・生活)	1・2・3・4	2	2								
	現代倫理学B(環境・情報)	1・2・3・4	2	2								
	現代日本の歴史	1・2・3・4	2	2								
	現代世界の歴史A(アジア)	未開講 1・2・3・4	2	2								担当教員辞任のため(23)
	現代世界の歴史B(欧米)	1・2・3・4	2	2								
	日本国憲法A	1・2・3・4	2	2								
	日本国憲法B	1・2・3・4	2	2								
	国際関係論A(政治)	1・2・3・4	2	2								
	国際関係論B(経済)	1・2・3・4	2	2								
	現代日本の経済	1・2・3・4	2	2								
	福祉社会論	1・2・3・4	2	2								
	情報社会論A(技術)	1・2・3・4	2	2								
	情報社会論B(生活)	1・2・3・4	2	2								
	ジェンダー論A(歴史と現状)	1・2・3・4	2	2								
	ジェンダー論B(男女平等社会)	1・2・3・4	2	2								
	地球環境問題	1・2・3・4	2	2								
	現代技術論	1・2・3・4	2	2								
	スポーツ科学	1・2・3・4	2	2								
	情報演習B(検定資格対策)	2・3・4	2	2								
	情報演習C(プログラミング)	2・3・4	2	2								
	情報演習D(画像処理)	2・3・4	2	2								
	キャリアデザイン実習Ⅰ	2・3・4	1	1								
	キャリアデザイン実習Ⅱ	3・4	3	3								
小計(56科目)		—	19	91	0	2 +	0 +	0	0	0		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数					専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専 門 領 域	社会福祉原論	1・2・3・4	4				+						<p>変更の主な理由</p> <p>①:「社会福祉に関する科目を定める省令」による変更。平成21年度入学者から適用。</p> <p>②:精神保健福祉士法第7条第1号の規定に基づく精神障害者の保健及び福祉に関する科目(平成20年厚生労働省告示第307号)による変更。平成21年度入</p> <p>③:教育職員免許法施行規則の一部改正に伴う高校一種免許状「福祉」の教科に関する科目の追加による変更。平成23年度入学者から適用。</p> <p>①②により科目廃止(21)</p> <p>※専任教員の異動により変更(21)</p> <p>「福祉心理学」学科専任教員へ担当者変更(22) 宮本文雄(教授)</p> <p>入学者減に伴う開講減(21)</p> <p>平成23年3月今中博章准教授の退職に伴う担当者の変更(23)</p> <p>担当 加地雄一(准教授)</p> <p>※専任教員の異動により変更予定(21)</p> <p>担当者の追加(22) 山口春子(教授)、江間由紀夫(准教授)</p> <p>担当者の追加(23)渡辺 央(助教)</p> <p>病気休職による担当者の変更(21)</p> <p>担当 川村宣輝(兼任)</p> <p>担当予定教授の死去に伴う担当者の変更(22) 江間由紀夫(准教授)</p> <p>①により平成22年度科目廃止予定(21)</p> <p>①②により平成24年度科目廃止予定(21)</p> <p>科目名称「介護技術概説」へ変更による廃止(21)</p> <p>産休及び育児休業による担当者の変更(21)</p> <p>担当 谷口恵子(助教)</p> <p>①により平成22年度科目廃止予定(21)</p> <p>教員間の調整による担当者の変更(23) 担当 渡辺 央(助教)</p> <p>兼任教員の担当科目数の増加により専任教員へ担当者変更(21)</p> <p>担当 北爪克洋(助教)</p> <p>①により平成22年度科目廃止予定(21)</p> <p>科目名称変更により平成22年度科目廃止予定(21)</p> <p>①②により平成23年度科目廃止予定(21)</p> <p>准教授の産休及び育児休業による担当者の変更(21)</p> <p>担当 宮本文雄(教授)</p> <p>当初担当予定者の変更及び担当者の追加(23) 担当 加地雄一(准教授)</p> <p>①により平成23年度科目廃止予定(21)</p> <p>平成20年度入学者減に伴う開講減(22)</p> <p>①により平成23年度科目廃止予定(21)</p> <p>平成20年度入学者減に伴う開講減(22)</p> <p>①により社会福祉士指定科目は平成23年度科目廃止予定、高校一種免許「福祉」の教科に関する科目としては、平成20年度入学者の卒業年度まで開講予定(21)</p> <p>平成20年度入学者減に伴う開講減(22)</p> <p>履修見込み者がいないため廃止(23)</p> <p>①により社会福祉工指定科目は平成23年度科目廃止予定、高校一種免許「福祉」の教科に関する科目としては、平成20年度入学者の卒業年度まで開講予定(21)</p> <p>平成20年度入学者減に伴う開講減(22)</p> <p>履修見込み者がいないため廃止(23)</p>
	一般心理学	1・2・3・4	4				+						
	福祉心理学	1・2・3・4	2				+						
	福祉心理学基礎演習	2・3・4	2				1	1		+			
	福祉心理学演習	3・4	2				4	3	3		1		
	福祉心理学演習	3・4	2				3	2	2				
	社会福祉援助技術論Ⅰ	1・2・3・4	4				+	1					
	社会福祉援助技術論Ⅱ	2・3・4	4					1					
	社会保障論	4	4				1						
	介護概論	1・2・3・4	2										
	児童福祉論	2・3・4	4					+		1			
	障害者福祉論	2・3・4	4				+			1			
	老人福祉論	2・3・4	4							1			
	家族福祉論	2・3・4	2					1					
	公的扶助論	2・3・4	2					1					
	地域福祉論	3・4	2				1	1					
	地域福祉論	3・4	2				2	2					
	地域ボランティア演習	1・2・3・4	1				+	+					
	手話の理論と実際	1・2・3・4	2										
	点字の理論と実際	1・2・3・4	2										
	社会福祉援助技術演習Ⅰ	3・4	2				1	+		2			
	社会福祉援助技術演習Ⅱ	3・4	2				+	1		2			
	社会福祉援助技術現場実習	3・4	6				+	+					
社会福祉援助技術現場実習指導	3・4	4				+	+						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専 門 領 域	社会福祉現場実習事前指導	2・3・4		2			+	+			1		入学者減に伴う担当者の減(21)、准教授の産休及び育児休業による担当者の変更(21) 担当 小野寺研一(准教授)
	精神保健学	2・3・4		4									当初担当者へ変更(22)
	精神科リハビリテーション学	2・3・4		4									教員間の調整による担当者の変更(23) 担当 渡辺 央(助教)
	精神保健福祉論	3・4		4			1						担当予定教授の死去に伴う担当者変更(22) 中山哲志(教授)
	精神保健福祉援助技術各論	2・3・4		4			+	1					病気休職教員の影響に伴う担当者の変更(21) 担当 野原将英(兼任)
	精神保健福祉援助演習	3・4		2			1						別の教授の死去による担当者変更(22) 江間由紀夫(准教授)
	精神保健福祉援助実習	4		6			2						担当予定教授の死去に伴う担当者減(22)
	精神保健福祉援助実習指導	4		4			1		1				担当予定教授の死去に伴う担当者変更(22) 江間由紀夫(准教授)
	職場福祉心理学	3・4		2									
	児童心理学	1・2・3・4		2					1				
	障害心理学Ⅰ(知的障害)	2・3・4		2			1						
	障害心理学Ⅱ	2・3・4		2			1						
	老人心理学	1・2・3・4		2									科目名称「高齢者心理学」へ変更により廃止(21)
	医学一般	2・3・4		4									②により平成22年度科目廃止(21)
	福祉医学Ⅰ(知的障害)	2・3・4		2									
	福祉医学Ⅱ	2・3・4		4									
	福祉工学	2・3・4		2									未開講(21)
	福祉体育	1・2・3・4		2									
	心理教育指導法Ⅰ(知的障害)	3・4		2			1						
	心理教育指導法Ⅱ(聴覚障害)	3・4		2			1						
	福祉と行政	2・3・4		2			1						①により平成22年度科目廃止予定(21)
	社会福祉制度論	2・3・4		2			1						①により平成22年度科目廃止予定(21)
	福祉社会学	2・3・4		4			+						教育課程改訂による担当者の変更(21)
	心理学実験実習	3・4		2			+	1			+		担当 金城悟(兼任)
	心理情報処理法	2・3・4		2			+						①により平成22年度科目廃止予定(21)
	社会福祉学特講	3・4		4			2	1					※担当教員の異動による変更(21)
心理査定法実習	3・4		2				1					平成22年度開講	
心理学基礎研究法	3・4		2			+						※担当教員の異動による変更(21)	
社会福祉学研究	4		4			1	2					平成22年度開講	
卒業論文	4		6			2	+					担当予定教授の死去及び教員間の調整による担当者の変更(23) 担当 江間由紀夫(准教授)、小野寺研一(准教授)	
現代社会と福祉Ⅰ	1前	2				3	1					※担当教員の異動による変更(21)	
現代社会と福祉Ⅱ	1後	2				4	2					平成20年度入学者減及び履修見込者減による変更(23)	
相談援助の基盤と専門職Ⅰ	1前	2					1					①②により科目追加(21)	
相談援助の基盤と専門職Ⅱ	1後	2					1					担当 渡邊映子(兼任)	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由		教授	准教授	講師	助教	助手	
専 門 領 域	相談援助の理論と方法Ⅰ	2前		2			1					①により科目追加(21) 平成22年度開講予定 担当 石田祥代(准教授)の育児休業(平成21・22年度)により、谷口恵子(助教)が担当予定。 平成23年度石田祥代(准教授)が担当(23)
	相談援助の理論と方法Ⅱ	2前		2			1					①により科目追加(21) 平成22年度開講予定 担当 小野寺研一(准教授)
	相談援助の理論と方法Ⅲ	2後		2			1					①により科目追加(21) 平成22年度開講予定 担当 石田祥代(准教授)の育児休業(平成21・22年度)により、谷口恵子(助教)が担当予定。 平成23年度石田祥代(准教授)が担当(23)
	相談援助の理論と方法Ⅳ	2後		2			1					①により科目追加(21) 平成22年度開講予定 担当 小野寺研一(准教授)
	社会保障Ⅰ	4前		2		1						①②により科目追加(21) 平成24年度開講予定 担当 山口春子(教授)
	社会保障Ⅱ	4後		2		1						①②により科目追加(21) 平成24年度開講予定 担当 山口春子(教授)
	児童・家庭福祉	2前		2			1					①により科目追加(21) 平成22年度開講予定 担当 石田祥代(准教授)は平成22年度育児休業により、谷口恵子(助教)が担当予定。 平成23年度石田祥代(准教授)が担当(23)
	障害者福祉	2前		2		1						①により科目追加(21) 平成22年度開講 担当 中山哲志(教授)
	福祉サービスの組織と経営	2後		2		1						①により科目追加(21) 平成22年度開講予定 担当 山口春子(教授)
	高齢者福祉	2後		2						1	+	①により科目追加(21) 平成22年度開講予定 担当 北爪克洋(助教) 退職に伴う担当者変更(22) 担当 高橋佳代(兼任)
	介護	1前		2						1	+	専任教員が担当(23)渡辺 央(助教) ①により科目追加(21) 担当 北爪克洋(助教) 退職に伴う担当者変更(22) 担当 高橋佳代(兼任)
	介護技術概説	1後		2								専任教員が担当(23)渡辺 央(助教) 科目名称「介護概論」を変更 担当 末益昭夫(兼任)
	公的扶助	2後		2		1						①②により科目追加(21) 平成22年度開講予定 担当 山口春子(教授)
	地域福祉Ⅰ	3前		2			1					①②により科目追加(21) 平成23年度開講予定 担当 石田祥代(准教授)
	地域福祉Ⅱ	3後		2			1					①②により科目追加(21) 平成23年度開講予定 担当 石田祥代(准教授)
	相談援助演習Ⅰ	2後		1				1			+	①により科目追加(21) 平成22年度開講予定 担当 北爪克洋(助教) 退職により助教から兼任へ変更(22) 専任教員が担当(23)石田祥代(准教授)
	相談援助演習Ⅱ	3前		1		1						①により科目追加(21) 平成23年度開講予定 担当 山口春子(教授)
	相談援助演習Ⅲ	3前		1			1					①により科目追加(21) 平成23年度開講予定 担当 石田祥代(准教授)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門領域	相談援助演習Ⅳ	3後		1		1						①により科目追加(21) 平成23年度開講予定 担当 山口春子(教授)
	相談援助演習Ⅴ	3・4後		1			1					①により科目追加(21) 平成23年度開講予定 担当 小野寺研一(准教授)
	相談援助実習	3・4通		4			1		1			①により科目追加(21) 平成23年度開講予定 担当 小野寺研一(准教授)、北爪克洋(助教)
	就労支援と更生保護	3前		2			1					北爪克洋助教の退職に伴う担当者の変更(23) 担当 渡辺 央(助教)
	相談援助実習指導Ⅰ	2後		2			1		+			①により科目追加(21) 平成23年度開講予定 担当 小野寺研一(准教授)
	相談援助実習指導Ⅱ	3・4通		4			1			1		①により科目追加(21) 平成22年度開講予定 担当 小野寺研一(准教授)、北爪克洋(助教)
	社会福祉総合実習	2後		3			1					北爪克洋助教の退職に伴う担当者の変更(23) 担当 渡辺 央(助教)
	高齢者心理学	1前		2								高校一種免許「福祉」教科に関する科目。①により社会福祉士の 実習科目と内容を差別化するため科目を追加(21) 平成22年度開講予定 担当 宮本文雄(教授)
	医学知識	1前		2								①において「老人」から「高齢者」へ表現が変更となったため科目名称変更(21) 担当 渡邊映子(兼任)
	保健医療	2後		2								①、②により科目追加(21) 本務の都合により就任辞退 担当者変更(22) 光岡 慎子(兼任)
	福祉行財政と福祉計画	2前		2			1					①、②により科目追加(21) 平成22年度開設予定 担当 山口春子(教授)
	権利擁護と成年後見	2後		2			1					①、②により科目追加(21) 平成22年度開設予定 担当 山口春子(教授)
	社会理論と社会システム	1前		2								①、②により科目追加(21) 担当 金城悟(兼任)
	社会福祉調査法	2後		2								本務の都合による就任辞退(23) 担当者変更 翁川景子(兼任)
	日常生活行動の理解と介護	1後		2								①により科目追加(21) 平成22年度開設予定 担当 金城悟(兼任)
	小計(71科目)			157		4	4		1			平成21年度休職者を含む。休職者の代替教員(助教1名)は左記に含まない。
	小計(52科目)		14	139	0	5	3	0	+	0		
教職に 関する 科目	教育原理	1・2・3・4		2								教職免許状取得者は左記4科目 8単位を専門領域選択の卒業単位として認める。
	教育心理学	1・2・3・4		2								
	教育制度	1・2・3・4		2								
	教育相談	2・3・4		2								
小計(4科目)			0	0	8	0	0	0	0	0		
合計(131科目)			246		4	4		1			学科総計143科目 学科総計124科目 平成21・22年度休職者を含む。休職者の代替教員(助教1名)は左記に含まない。	
合計(112科目)		33	230	8	5	3	0	+	2	0		

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
特 設 科 目	文章読解A	2・3・4	2	2							
	文章読解B	2・3・4	2	2							
	文章表現A	2・3・4	2	2							
	文章表現B	2・3・4	2	2							
	日本事情A(歴史・地理・時事)	1・2・3・4	2	2							
	日本事情B(政治・経済・文化)	2・3・4	2	2							
	小計(12科目)	—	0 18	18 9	0	0	0	0	0	0	
専 門 領 域	社会福祉原論	1・2・3・4	4			4					<p>変更の主な理由</p> <p>①:「社会福祉に関する科目を定める省令」による科目変更。平成21年度入学者から適用。</p> <p>②:精神保健福祉士法第7条第1号の規定に基づく精神障害者の保健及び福祉に関する科目(平成20年厚生労働省告示第307号)による科目変更。平成21年度入学者から適用。</p> <p>③:教育職員免許法施行規則の一部改正に伴う高校一種免許状「福祉」の教科に関する科目の追加による変更。平成23年度入学者から適用。</p> <p>①②により科目廃止(21)</p> <p>※専任教員の異動により変更(21)</p> <p>「福祉心理学」学科専任教員へ担当者変更(22) 宮本文雄(教授)</p> <p>入学者減に伴う開講減(21)</p> <p>平成23年3月今中博章准教授の退職に伴う担当者の変更(23) 担当 加地雄一(准教授)</p> <p>※専任教員の異動により変更予定(21)</p> <p>担当者の追加(22) 山口春子(教授)、江間由紀夫(准教授)</p> <p>担当者の追加(23)渡辺 央(助教)</p> <p>病気休職による担当者の変更(21) 担当 川村宣輝(兼任)</p> <p>担当予定教授の死去に伴う担当者変更(22) 江間由紀夫(准教授)</p> <p>①により平成22年度科目廃止予定(21)</p> <p>①②により平成24年度科目廃止予定(21)</p> <p>科目名称「介護技術概説」へ変更による廃止(21)</p> <p>産休及び育児休業による担当者の変更(21)</p> <p>担当 谷口恵子(助教)</p> <p>①により平成22年度科目廃止予定(21)</p> <p>教員間の調整による担当者の変更(23) 担当 渡辺 央(助教)</p> <p>兼任教員の担当科目数の増加により専任教員へ担当者変更 担当 北爪克洋(助教)</p> <p>①により平成22年度科目廃止予定(21)</p> <p>科目名称変更により平成22年度科目廃止予定(21)</p> <p>①②により平成23年度科目廃止予定(21)</p> <p>准教授の産休及び育児休業による担当者の変更(21) 担当 宮本文雄(教授)</p> <p>当初担当予定者の変更及び担当者の追加(23) 担当 加地雄一(准教授)</p> <p>①により平成23年度科目廃止予定(21)</p> <p>平成20年度入学者減に伴う開講減(22)</p> <p>①により平成23年度科目廃止予定(21)</p> <p>平成20年度入学者減に伴う開講減(22)</p>
	一般心理学	1・2・3・4	4			4					
	福祉心理学	1・2・3・4	2			4					
	福祉心理学基礎演習	2・3・4	2			1	1		4		
	福祉心理学演習	3・4	2			4 3 4	3 2		1		
	社会福祉援助技術論Ⅰ	1・2・3・4	4			4					
	社会福祉援助技術論Ⅱ	2・3・4	4				1				
	社会保障論	4	4			1					
	介護概論	1・2・3・4	2								
	児童福祉論	2・3・4	4				4		1		
	障害者福祉論	2・3・4	4			4			1		
	老人福祉論	2・3・4	4						1		
	家族福祉論	2・3・4	2								
	公的扶助論	2・3・4	2			1					
	地域福祉論	3・4	2			1 2	1 2				
	地域ボランティア演習	1・2・3・4	1			4	4				
	手話の理論と実際	1・2・3・4	2								
	点字の理論と実際	1・2・3・4	2								
	社会福祉援助技術演習Ⅰ	3・4	2			1	4		2		
社会福祉援助技術演習Ⅱ	3・4	2			1	4		2			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由		教授	准教授	講師	助教	助手		
専 門 領 域	社会福祉援助技術現場実習	3・4		6			+	2					①により社会福祉士指定科目は平成23年度科目廃止予定、高校一種免許「福祉」の教科に関する科目としては、平成20年度入学者の卒業年度まで開講予定(21)平成20年度入学者減に伴う開講減(22) 履修見込み者がいないため廃止(23)
	社会福祉援助技術現場実習指導	3・4		4			+	2					①により社会福祉士指定科目は平成23年度科目廃止予定、高校一種免許「福祉」の教科に関する科目としては、平成20年度入学者の卒業年度まで開講予定(21)平成20年度入学者減に伴う開講減(22) 履修見込み者がいないため廃止(23)
	社会福祉現場実習事前指導	2・3・4		2			+	+			1		入学者減に伴う担当者の減(21)、准教授の産休及び育児休業による担当者の変更(21) 担当 小野寺研一(准教授) 当初担当者へ変更(22)
	精神保健学	2・3・4		4									教員間の調整による担当者の変更(23) 担当 渡辺 央(助教)
	精神科リハビリテーション学	2・3・4		4									担当予定教授の死去に伴う担当者変更(22) 中山哲志(教授)
	精神保健福祉論	3・4		4			1						病気休職教員の影響に伴う担当者の変更(21)
	精神保健福祉援助技術各論	2・3・4		4			+	1					担当 野原将英(兼任) 別の教授の死去による担当者の変更(22) 江間由紀夫(准教授)
	精神保健福祉援助演習	3・4		2			1	2					担当予定教授の死去に伴う担当者減(22)
	精神保健福祉援助実習	4		6			1						
	精神保健福祉援助実習指導	4		4			+	1					担当予定教授の死去に伴う担当者変更(22) 江間由紀夫(准教授)
	職場福祉心理学	3・4		2									
	児童心理学	1・2・3・4		2				1					
	障害心理学Ⅰ(知的障害)	2・3・4		2			1						
	障害心理学Ⅱ	2・3・4		2			1						
	老人心理学	1・2・3・4		2									科目名称「高齢者心理学」へ変更により廃止(21)
	医学一般	2・3・4		4									②により平成22年度科目廃止
	福祉医学Ⅰ(知的障害)	2・3・4		2									
	福祉医学Ⅱ	2・3・4		4									
	福祉工学	2・3・4		2									未開講(21)
	福祉体育	1・2・3・4		2									
	心理教育指導法Ⅰ(知的障害)	3・4		2			1						
	心理教育指導法Ⅱ(聴覚障害)	3・4		2			1						
	福祉と行政	2・3・4		2			1						
	社会福祉制度論	2・3・4		2			1						
	福祉社会学	2・3・4		4			+						
	心理学実験実習	3・4		2			+	1			+		①により平成22年度科目廃止(21) ①により平成22年度科目廃止(21) 教育課程改訂による担当者の変更(21) 担当 金城悟(兼任)
	心理情報処理法	2・3・4		2			+						①により平成22年度科目廃止(21) ※担当教員の異動による変更(21) 平成22年度開講
社会福祉学特講	3・4		4			2	1					※担当教員の異動による変更(21) 未開講(22) 1クラスにて開講(23)	
心理査定法実習	3・4		2				1						
心理学基礎研究法	3・4		2			+		1				※担当教員の異動による変更(21) 平成22年度開講	
社会福祉学研究	4		4			2	+	3				担当予定教授の死去及び教員間の調整による担当者の変更(23) 担当 江間由紀夫(准教授)、小野寺研一(准教授)	
卒業論文	4		6			4	2	1				※担当教員の異動による変更(21) 平成20年度入学者減及び履修見込者減による変更(23)	
現代社会と福祉Ⅰ	1前		2					1				①、②により科目追加(21) 担当 渡邊映子(兼任) 専任教員へ変更(22) 江間由紀夫(准教授)	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門領域	現代社会と福祉Ⅱ	1後	2				1					①②により科目追加(21) 担当 渡邊映子(兼任) 専任教員へ変更(22) 江間由紀夫(准教授)
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	1前		2			1					①により科目追加(21) 担当 林真晟(兼任) 専任教員へ変更(22) 江間由紀夫(准教授)
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	1後		2			1					①により科目追加(21) 担当 林真晟(兼任) 専任教員へ変更(22) 江間由紀夫(准教授)
	相談援助の理論と方法Ⅰ	2前		2			1					①により科目追加(21) 平成22年度開講予定 担当 石田祥代(准教授)の育児休業(平成21・22年度)により、谷口恵子(助教)が担当予定。 平成23年度石田祥代(准教授)が担当(23)
	相談援助の理論と方法Ⅱ	2前		2			1					①により科目追加(21) 平成22年度開講予定 担当 小野寺研一(准教授)
	相談援助の理論と方法Ⅲ	2後		2			1					①により科目追加(21) 平成22年度開講予定 担当 石田祥代(准教授)の育児休業(平成21・22年度)により、谷口恵子(助教)が担当予定。 平成23年度石田祥代(准教授)が担当(23)
	相談援助の理論と方法Ⅳ	2後		2			1					①により科目追加(21) 平成22年度開講予定 担当 小野寺研一(准教授)
	社会保障Ⅰ	4前		2			1					①②により科目追加(21) 平成24年度開講予定 担当 山口春子(教授)
	社会保障Ⅱ	4後		2			1					①②により科目追加(21) 平成24年度開講予定 担当 山口春子(教授)
	児童・家庭福祉	2前		2			1					①により科目追加(21) 平成22年度開講予定 担当 石田祥代(准教授)は平成22年度育児休業により、谷口恵子(助教)が担当予定。 平成23年度石田祥代(准教授)が担当(23)
	障害者福祉	2前		2			1					①により科目追加(21) 平成22年度開講 担当 中山哲志(教授)
	福祉サービスの組織と経営	2後		2			1					①により科目追加(21) 平成22年度開講予定 担当 山口春子(教授)
	高齢者福祉	2後		2						1	+	①により科目追加(21) 平成22年度開講予定 担当 北爪克洋(助教) 退職に伴う担当者の変更(22) 高橋佳代(兼任)
	介護	1前		2						1	+	専任教員が担当(23)渡辺 央(助教) ①により科目追加(21) 担当 北爪克洋(助教) 退職に伴う担当者の変更(22) 高橋佳代(兼任)
	介護技術概説	1後		2								科目名称「介護概論」を変更 (21) 担当 末益昭夫(兼任)
	公的扶助	2後		2			1					①②により科目追加(21) 平成22年度開講予定 担当 山口春子(教授)
	地域福祉Ⅰ	3前		2				1				①②により科目追加(21) 平成23年度開講予定 担当 石田祥代(准教授)
地域福祉Ⅱ	3後		2				1				①②により科目追加(21) 平成23年度開講予定 担当 石田祥代(准教授)	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専 門 領 域	相談援助演習Ⅰ	2後		1			1			+	①により科目追加(21) 平成22年度開講予定担当 北爪克洋(助教) 退職により助教から兼任へ変更(22) 専任教員が担当(23)石田祥代(准教授)
	相談援助演習Ⅱ	3前		1		1					①により科目追加(21) 平成23年度開講予定 担当 山口春子(教授)
	相談援助演習Ⅲ	3前		1			1				①により科目追加(21) 平成23年度開講予定 担当 石田祥代(准教授)
	相談援助演習Ⅳ	3後		1		1					①により科目追加(21) 平成23年度開講予定 担当 山口春子(教授)
	相談援助演習Ⅴ	3・4後		1			1				①により科目追加(21) 平成23年度開講予定 担当 小野寺研一(准教授)
	相談援助実習	3・4通		4			1			1	①により科目追加(21) 平成23年度開講予定 担当 小野寺研一(准教授)、北爪克洋(助教) 北爪克洋助教の退職に伴う担当者の変更(23) 担当 渡辺 央(助教)
	就労支援と更生保護	3前		2			1				①により科目追加(21) 平成23年度開講予定 担当 小野寺研一(准教授)
	相談援助実習指導Ⅰ	2後		2			1			+	①により科目追加(21) 平成22年度開講予定 担当 小野寺研一(准教授)、北爪克洋(助教) 北爪克洋助教の退職に伴う担当者減。平成22年度から変更(23)
	相談援助実習指導Ⅱ	3・4通		4			1			1	①により科目追加(21) 平成23年度開講予定 担当 小野寺研一(准教授)、北爪克洋(助教) 北爪克洋助教の退職に伴う担当者の変更(23) 担当 渡辺 央(助教)
	社会福祉総合実習	2後		3		1					高校一種免許「福祉」教科に関する科目。①により社会福祉士の実習科目と内容を差別化するため科目を追加(21) 平成22年度開講予定 担当 宮本文雄(教授)
	高齢者心理学	1前		2							①において「老人」から「高齢者」へ表現が変更となったため科目名称変更(21) 担当 渡邊映子(兼任)
	医学知識	1前		2							①②により科目追加(21) 担当 上野豪志(兼任) 本務の都合により就任辞退 担当者変更(22) 光岡摂子(兼任)
	保健医療	2後		2							①②により科目追加(21) 平成22年度開設予定 担当 上野豪志(兼任) 本務の都合により就任辞退 担当者変更(22) 染野貴寛(兼任)
	福祉行財政と福祉計画	2前		2		1					①②により科目追加(21) 平成22年度開設予定 担当 山口春子(教授)
	権利擁護と成年後見	2後		2		1					①②により科目追加(21) 平成22年度開設予定 担当 山口春子(教授)
	社会理論と社会システム	1前		2							①②により科目追加(21) 担当 金城悟(兼任) 本務の都合による就任辞退(23) 担当者変更 翁川景子(兼任)
	社会福祉調査法	2後		2							①により科目追加(21) 平成22年度開設予定 担当 金城悟(兼任) 本務の都合による就任辞退(23) 担当者変更 翁川景子(兼任)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門領域	日常生活行動の理解と介護	1後		2								③により科目追加(23) 担当原千恵子(兼任) 平成21年度休職者を含む。休職者の代替教員(助教1名)は左記に含まない。
	小計(71科目)			157		4	4		1			
	小計(52科目)	—	14	139	0	6	3	0	2	0		
る教科職目に関する	教育原理	1・2・3・4			2							教職免許状取得者は左記4科目8単位を専門領域選択の卒業単位として認める。
	教育心理学	1・2・3・4			2							
	教育制度	1・2・3・4			2							
	教育相談	2・3・4			2							
	小計(4科目)	—	0	0	8	0	0	0	0	0		
	合計(143科目) 合計(120科目)	—	33	264 230	8	4 6	4 3	0	1 2	0	0	学科総計143科目 学科総計124科目 平成21・22年度休職者を含む。休職者の代替教員(助教1名)は左記に含まない。

- (注) ・ 届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成22年度に届出された大学等は届出時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 ・ 「配当年次」について、届出時に開講時期を記載する必要がなかった学部等(平成19年度届出以前)についても、届出時の状況を黒字で記載してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても、「(1)授業科目表」にはその状況を反映させてください。(ただし、「(3)未開講科目」欄には記載する必要はありません)。

(2) 授業科目数

届出時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 15	科目 93	科目 4	科目 112	科目 16 [+1]	科目 111 [+18]	科目 4 [0]	科目 131 [+19]	
必修 23	選択 93	自由 4	計 120	必修 16 [△7]	選択 123 [+30]	自由 4 [0]	計 143 [+19]	外国人留学生等 特設科目履修者

- (注)・未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例:1科目減の場合:△1)

(3) 未開講科目 該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	現代世界の歴史A(アジア)	2	1・2前	一般	選択	担当教員の退職による未開講。他の選択科目が多数あるため、代替措置は行っていない。

(注)・届出時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。(ただし、未開講科目があった場合は、(1)「授業科目表」にその状況を反映させてください。)

(4) 廃止科目

下記①、②により、社会福祉士及び精神保健福祉士受験資格履修科目の変更に伴い平成21年度入学者から適用となった。このため、当初計画の教育課程(平成20年度入学者)は、在学生の卒業を待って廃止となる。この間の措置は下表のとおりである。(平成21年度報告済)

- ① 社会福祉士法及び介護福祉士法の改正に伴う「社会福祉に関する科目を定める省令」(平成20年文部科学省令・厚生労働省令第3号)施行により、社会福祉士受験資格指定科目が平成21年度入学者から変更となったため。
- ② 精神保健福祉法第7条第1の規定に基づく精神障害者の保健及び福祉に関する科目(平成20年5月12日厚生労働省告示第307号)により、精神保健福祉士受験資格指定科目が平成21年度入学者から変更となったため。
- ③ 科目名称変更

上記のほか、教育職員免許法施行規則の一部改正に伴い、平成23年度入学者から高一種免「福祉」の教科に関する科目を変更した。これにより1科目を新設、1科目を廃止した。(平成23年度報告)

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	社会福祉原論	4	1	専門	必修	上記①及び②の理由による。平成20年度入学者に対しては、平成21年度から「現代社会と福祉Ⅰ」及び「同Ⅱ」の履修を以て読み替える。
2	介護概論	2	1	専門	選択	上記③の理由による。平成20年度入学者に対しては、平成21年度から「介護技術概説」の履修を以て読み替える。
3	老人心理学	2	1	専門	選択	上記③において「老人」から「高齢者」へ表現が変更されているため、平成21年度入学者から「高齢者心理学」へ名称変更した。平成20年度入学者に対しては、「高齢者心理学」の履修を以て読み替える。
4	社会福祉援助技術論Ⅱ	4	2	専門	選択	上記①の理由による。平成20年度入学者に対しては、平成22年度から「相談援助の理論と方法Ⅱ」及び「同Ⅳ」の履修を以て読み替える。
5	社会保障論	4	4	専門	選択	上記①及び②の理由による。平成20年度入学者に対しては、平成24年度から「社会保障論Ⅰ」及び「同Ⅱ」の履修を以て読み替える。
6	児童福祉論	4	2	専門	選択	上記①の理由による。平成20年度入学者に対しては、平成22年度から「児童・家庭福祉」及び「相談援助の理論と相談Ⅲ」の履修を以て読み替え予定。
7	老人福祉論	4	2	専門	選択	上記①の理由により、平成20年度入学者に対しては、平成22年度から「介護」及び「高齢者福祉」の履修を以て読み替える。
8	公的扶助論	2	2	専門	選択	科目名称の変更により、平成20年度入学者に対しては、平成22年度から「公的扶助」の履修を以て読み替える。
9	地域福祉論	2	3	専門	選択	上記①及び②の理由による。平成20年度入学者に対しては、平成23年度から「地域福祉Ⅰ」の履修を以て読み替える。
10	社会福祉援助技術演習Ⅰ	2	3	専門	選択	上記①の理由による。平成20年度入学者に対しては、平成23年度から「相談援助演習Ⅱ」及び「相談援助演習Ⅳ」の履修を以て読み替える。
11	社会福祉援助技術演習Ⅱ	2	3	専門	選択	上記①の理由による。平成20年度入学者に対しては、平成23年度から「相談援助演習Ⅲ」及び「相談援助演習Ⅴ」の履修を以て左記科目に読み替える。
12	社会福祉援助技術現場実習	6	3	専門	選択	上記①の理由による。平成20年度入学者に対しては、平成23年度から「相談援助実習」の履修を以て読み替える。なお、高校一種免許「福祉」の教科に関する科目については、平成20年度入学者の卒業年度まで開講予定。

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
13	社会福祉援助技術現場実習指導	4	3	専門	選択	上記①の理由による。平成20年度入学者に対しては、平成23年度から「相談援助実習指導Ⅱ」の履修を以て読み替える。なお、高校一種免許「福祉」の教科に関する科目については、平成20年度入学者の卒業年度まで開講予定。
14	医学一般	4	2	専門	選択	上記②の理由による。平成20年度入学者に対しては、平成22年度から「医学知識」及び「保健医療」の履修を以て読み替える予定。
15	福祉と行政	2	2	専門	選択	上記①の理由による。平成20年度入学者に対しては、平成22年度から「社会福祉行財政と福祉計画」の履修を以て読み替える予定。
16	社会福祉制度論	2	2	専門	選択	上記①の理由による。平成20年度入学者に対しては、平成22年度から「権利擁護と成年後見」の履修を以て読み替える。
17	福祉社会学	4	2	専門	選択	上記①の理由による。平成20年度入学者に対しては、平成22年度から「社会理論と社会システム」及び「社会福祉調査法」の履修を以て読み替える。
18	介護技術概説	2	1	専門	選択	上記平成23年度報告の理由による。平成21・22年度入学者に対しては、「日常生活行動の理解と介護」を以て読み替える。

(注)・届出時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

未開講科目について

本年2月、担当教員は本年4月から他大学の専任教員就任が決定したため、退職の申し出があった。後任については、時期的に困難と判断し、また、他の選択科目も多数あることから未開講とした。

学生への周知は、学生に配布する授業時間割表に掲載するとともに、4月当初のオリエンテーションで周知した。

廃止科目について(平成21年度報告済)

廃止科目については、社会福祉士及び精神保健福祉士受験資格の履修科目の変更に伴い平成21年度入学者から適用となった。当初計画の教育課程(平成20年度入学者)は、在学生の卒業を待って廃止する。

福祉心理学科は、平成5年度開設当初から社会福祉士国家資格課程を導入し、平成12年度から精神保健福祉士受験資格課程を加えた。入学の動機は、国家資格取得希望者の割合が極めて高く、卒業後の実績も踏まえ、法改正等に伴う教育課程を変更せざるを得ないと判断した。平成20年度入学者に対しては、年度当初のオリエンテーションにて説明し、本年度履修科目対照表を履修ガイドに掲載し周知している。

廃止科目について(平成23年度報告)

教育職員免許法施行規則の一部改正による高一種免許「福祉」の教科に関する科目の変更に伴い、平成23年度入学者から適用となった。該当する1科目は平成20年度入学者の卒業を待って廃止するが、本年度より「日常生活行動の理解と介護」の履修を以て読み替えとする。

本学科は、平成9年度から高校「公民」及び養護学校教諭の教職課程を置き、現在は高校「福祉」及び特別支援学校教諭の2免許が取得できる。これまでの教員免許状取得者や採用実績を踏まえ規則改正に伴う教育課程を変更せざるを得ないと判断した。学生に対しては、年度当初の学科オリエンテーションにて説明し、本年度履修ガイドにも掲載し周知した。

(注)・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「届出時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{届出時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.15}$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

<応用心理学部 臨床心理学科>

(1) 授業科目表 専門領域

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
共 通 科 目 領 域	キャリアデザイン	1・2・3・4	2								
	基礎演習	1・2・3・4	2								
	ディベート	1・2・3・4	2								
	文章表現法	1・2・3・4	2								
	情報入門Ⅰ	1・2・3・4	2								
	情報入門Ⅱ	1・2・3・4	2								
	福祉心理学入門	1・2・3・4	2								
	英語会話	1・2・3・4	2								
	総合英語	2・3・4	2								
	フィットネス	1・2・3・4	1								
	哲学A(人間と社会)	1・2・3・4	2		2						
	哲学B(人間と自然)	1・2・3・4	2		2						
	文学A(日本)	1・2・3・4	2		2						
	文学B(世界)	1・2・3・4	2		2						
	芸術学A(前近代)	1・2・3・4	2		2						
	芸術学B(近現代)	1・2・3・4	2		2						
	政治学A(政治の制度と思想)	1・2・3・4	2		2						
	政治学B(現代日本の政治)	1・2・3・4	2		2						
	法学A(法とは何か)	1・2・3・4	2		2						
	法学B(法の体系)	1・2・3・4	2		2						
	経済学A(基礎)	1・2・3・4	2		2						
	経済学B(応用)	1・2・3・4	2		2						
	社会学A(社会学の基礎理論)	1・2・3・4	2		2						
	社会学B(現代日本の社会)	1・2・3・4	2		2						
	人文地理A(日本)	1・2・3・4	2		2						
	人文地理B(世界)	1・2・3・4	2		2						
	心理学A(基礎心理)	1・2・3・4	2		2		+			+	教員の調整による担当教員の変更(21) 担当 鎌田大輔(助教) 21年度担当教員の退職に伴う担当教員の変更(22) 担当 海保博之(兼任)
	心理学B(臨床心理)	1・2・3・4	2		2		+			+	教員の調整による担当教員の変更(21) 担当 鎌田大輔(助教) 当初計画どおり担当(22) 担当 石崎一記(兼任)
	環境科学	1・2・3・4	2		2						
	自然科学入門	1・2・3・4	2		2						
	情報演習A(情報発信)	1・2・3・4	2		2						
	健康科学	1・2・3・4	2		2						
	健康スポーツ	1・2・3・4	1		1						
	現代倫理学A(生命・生活)	1・2・3・4	2		2						
	現代倫理学B(環境・情報)	1・2・3・4	2		2						
	現代日本の歴史	1・2・3・4	2		2						
	現代世界の歴史A(アジア)	1・2・3・4	2		2						担当教員辞任のため(23)
	現代世界の歴史B(欧米)	1・2・3・4	2		2						
	日本国憲法A	1・2・3・4	2		2						
	日本国憲法B	1・2・3・4	2		2						
	国際関係論A(政治)	1・2・3・4	2		2						
	国際関係論B(経済)	1・2・3・4	2		2						
	現代日本の経済	1・2・3・4	2		2						
	福祉社会論	1・2・3・4	2		2						
	情報社会論A(技術)	1・2・3・4	2		2						
	情報社会論B(生活)	1・2・3・4	2		2						
	ジェンダー論A(歴史と現状)	1・2・3・4	2		2						
	ジェンダー論B(男女平等社会)	1・2・3・4	2		2						
	地球環境問題	1・2・3・4	2		2						
	現代技術論	1・2・3・4	2		2						
	スポーツ科学	1・2・3・4	2		2						
	情報演習B(検定資格対策)	2・3・4	2		2						
	情報演習C(プログラミング)	2・3・4	2		2						
	情報演習D(画像処理)	2・3・4	2		2						
	キャリアデザイン実習Ⅰ	2・3・4	1		1						
	キャリアデザイン実習Ⅱ	3・4	3		3						
小計(56科目)	—	—	19	91	0	+	0	0	0	0	

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
専 門 領 域	心理学概説A	1・2・3・4	2			3 5 7	4 1	2 1 2			3 2	専任教員の死去、異動、産休及び育児休業による変更(21) 教授の新規採用、青木佐奈枝准教授の退職に伴う田村節子准教授への担当者変更、産休及び育児休業取得教員の復職に伴う変更(22) 専任教員の退職及び新規採用による担当者変更並びに職位の変更及び教育内容の充実を図るため担当者の追加(23)
	心理学概説B	1・2・3・4	2						1	1		教員間の調整による担当者の変更(22) 担当 山口正寛(助教)
	生涯発達心理学A	1・2・3・4	2				1					※専任教員の異動による変更(21)。
	生涯発達心理学B	1・2・3・4	2				1					※専任教員の異動による変更(21)。
	臨床心理学A	1・2・3・4	2			1			1			教授へ担当を変更(21) 担当 勝倉孝治(教授)
	臨床心理学B	1・2・3・4	2						1			
	心理学統計A	2・3・4	2			1						※専任教員の異動による変更(21)。
	心理学統計B	2・3・4	2			1						※専任教員の異動による変更(21)。
	心理学研究法A	2・3・4	2					1			1	産休及び育児休業による担当者の変更(21) 担当 羽鳥健司(兼担) 産休及び育児休業取得教員の復職に伴う変更(22) 担当 飯田順子(講師) 担当教員の職位変更(23) 担当 飯田順子(准教授)
	心理学研究法B	2・3・4	2					1		1		産休及び育児休業による担当者の変更(21) 担当 羽鳥健司(兼担) 当初担当教員の産休及び育児休業取得に伴う変更、担当者未定。(22) 平成22年度休職教員の復職並びに職位の変更(23) 担当 飯田順子(准教授)
	心理療法概論A	2・3・4	2			1	1					教員間の調整による担当教員の変更(23) 担当 根津 克己(准教授)
	心理療法概論B	2・3・4	2			1						教員間の調整による担当教員の変更(21)。 担当 石村郁夫(助教) 担当 羽鳥健司(兼担)
	心理学基礎実験	1・2・3・4	2			1					2 1	教員間の調整による担当者の変更(22) 担当 石村郁夫(助教) 担当 山口正寛(助教)
	臨床心理査定法Ⅰ	2・3・4	2					1 1				当初担当教員の退職による変更(22) 担当 櫻村正美(兼任) 教員の新規採用による担当者の変更(23) 担当 阿部 宏徳(准教授)
	臨床心理査定法Ⅱ	3・4	2					1 1				当初担当教員の退職による変更(22) 担当 櫻村正美(兼任) 教員の新規採用による担当者の変更(23) 担当 阿部 宏徳(准教授)
	臨床心理学実習Ⅰ	2・3・4	1			1					1	教育内容の充実を図るため、担当教員を追加(21)。 担当小林敦子(教授) 担当 羽鳥健司(兼担) 教員間の調整による担当者の変更(22) 担当 小林厚子(教授) 担当 山口正寛(助教) 小林厚子教授退職に伴う担当教員減(23) 他に2名担当教員がいるため支障はない。 教員間の調整及び教育内容の充実を図るための担当教員の変更及び追加(21) 担当 小林厚子(教授) 担当 鎌田大輔(助教) 担当 羽鳥健司(兼担) 鎌田大輔助教の退職による担当者の変更(22) 担当 小林厚子(教授) 担当 山口正寛(助教) 担当 羽鳥健司(兼担)
	臨床心理学実習Ⅱ	3・4	1			1	1				1	小林厚子教授の退職による担当者変更及び教員間の調整による担当教員減(23) 担当 飯田純子(准教授) 担当 山口正寛(助教)
	カウンセリング心理学A	1・2・3・4	2			1	1					教員間の調整による担当者の変更(22) 担当 田村節子(准教授)
	カウンセリング心理学B	1・2・3・4	2			1	1					教員間の調整による担当者の変更(22) 担当 田村節子(准教授)
	人格心理学A	2・3・4	2			1						小林厚子教授の退職に伴う担当教員の変更(23) 担当 吉田 富二雄(兼任)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
専 門 領 域	人格心理学B	2・3・4		2		+						小林厚子教授の退職に伴う担当教員の変更(23) 担当 齋藤 義浩(兼任)
	学習心理学A	2・3・4		2								
	学習心理学B	2・3・4		2								
	神経心理学	2・3・4		2								
	家族関係論A	2・3・4		2						1		教職課程再課程認定申請にあたり、専任教員を配置(21) 担当 石村郁夫(助教)
	家族関係論B	2・3・4		2		1						教職課程再課程認定申請にあたり、専任教員を配置(21) 担当 小林厚子(教授) 小林厚子教授の退職に伴う担当教員の変更(23) 担当 井上忠典(教授)
	社会心理学	3・4		2								
	家族心理学A	2・3・4		2								
	家族心理学B	2・3・4		2								
	産業心理学	3・4		2								
	認知心理学A	2・3・4		2								
	認知心理学B	2・3・4		2								
	学校心理学A	3・4		2			1				+	産休及び育児休業による担当の変更(21) 担当 羽鳥健司(兼任) 産休及び育児休業取得教員の復職に伴う変更(22) 担当 飯田順子(講師) 担当教員の職位変更(23) 担当 飯田順子(准教授)
	学校心理学B	3・4		2			1				+	産休及び育児休業による担当の変更(21) 担当 羽鳥健司(兼任) 当初担当教員の産休及び育児休業取得に伴う変更、担当者未定。(22) 平成22年度休職教員の復職並びに職位の変更(23) 担当 飯田順子(准教授)
	発達臨床心理学A	2・3・4		2						+		届出時教員の退職による変更(21) 担当 臼井 東(兼任)
	発達臨床心理学B	2・3・4		2		1				+		届出時教員の退職による変更(21) 担当 石村 郁夫(助教) 教授へ担当を変更(22) 担当 新井邦二郎(教授)
	精神医学A	3・4		2								
	精神医学B	3・4		2								
	グループアプローチ特講A	2・3・4		2			+				+	※専任教員の異動による変更及び教育上の配慮による担当教員の追加(21) 担当 鎌田大輔(助教) 21年度担当教員の退職に伴う専任教員減(22)
	グループアプローチ特講B	2・3・4		2			+				+	※専任教員の異動による変更及び教育上の配慮による担当教員の追加(21) 担当 鎌田大輔(助教) 21年度担当教員の退職に伴う専任教員減(22)
	英文講読	2・3・4		2								
	臨床心理学原書講読A	3・4		1								
	臨床心理学原書講読B	3・4		1								
臨床心理学特講A	4		2									
臨床心理学特講B	4		2									
生涯発達心理学演習	3・4		2			1					+	※専任教員の異動による変更(21)。 新規採用教員の担当追加による変更(22) 担当 新井邦二郎(教授)
発達臨床心理学演習	3・4		2							1		届出時教員の退職による変更(21) 担当 石村郁夫(助教)
人格心理学演習	3・4		2			1		+				当初担当予定教員の退職による開講減。(22) 教員の新規採用による担当者の変更(23) 担当 阿部 宏徳(准教授)
学校心理学演習	3・4		2					+	2	+		産休及び育児休業による担当の変更(21) 担当 齋藤義浩(兼任) 教育内容の充実を図るため開講増(22) 担当 田村節子(准教授) 平成22年度休職教員の復職並びに職位の変更(23) 担当 飯田順子(准教授)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
専 門 領 域	カウンセリング心理学演習	3・4		2		1						教育内容の充実を図るため開講増(22) 担当 羽鳥健司(兼担) 國分康孝教授退職に伴う担当教員の変更及 び開講減(23) 担当 勝倉孝治(教授)
	臨床心理学演習	3・4		2		3	1	1				※専任教員の異動による変更(21)。 勝倉孝治教授 担当科目の変更に伴う開講減 及び職位の変更(23) 担当 根津克己(准教授)
	臨床心理学観察実習	4		2			1	1				担当教員の職位変更(23) 担当 根津克己(准教授)
	倫理学概説A	1・2・3・4		2								
	倫理学概説B	1・2・3・4		2								
	福祉と行政	2・3・4		2								社会福祉に特化した講義内容を改定したこと により、廃止(21)
	卒業研究	4		4		3 5 4 7	4 1	1 2		1		教職課程再課程認定申請にあたり、中教審よ り科目削除の指示があったため廃止(20) 専任教員の死去、異動、産休及び育児休業 による変更(21) 新規採用教員の担当追加による変更(22) 専任教員の退職、新規採用教員の担当追 加、平成22年度休職教員の復職並びに職位 の変更(23)
	卒業論文	4		4		3 5 4 7	4 1	1 2		1		専任教員の死去、異動、産休及び育児休業 による変更(21) 新規採用教員の担当追加による変更(22) 専任教員の退職、新規採用教員の担当追 加、平成22年度休職教員の復職並びに職位 の変更(23)
	小計(56科目)			80		3 5 4				3 2		
	小計(58科目)	—	32	86		7 1	1 2			1 1		
合計(112科目)			171		3 5 4				3 2		学科総計124科目	
合計(114科目)	—	51	177		7 1	1 2			1 1		学科総計126科目	

(応用心理学部臨床心理学科 外国人留学生等特設科目履修者)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
共 基 礎 教 養 領 域 科 目	キャリアデザイン	1・2・3・4	2									外国人留学生は、日本語運用能力によらず「特設科目」を必修とし、左記の「キャリアデザイン」「文章表現法」「英語会話」「総合英語」は教育課程から除外していたが、平成21年度入学者から「特設科目」を選択とし、上記4科目を追加(21)。なお平成21年度入学の外国人留学生は、特設科目を履修。
	基礎演習	1・2・3・4	2									
	ディベート	1・2・3・4	2									
	文章表現法	1・2・3・4	2									
	情報入門Ⅰ	1・2・3・4	2									
	情報入門Ⅱ	1・2・3・4	2									
	福祉心理学入門	1・2・3・4	2									
	英語会話	1・2・3・4	2									
	総合英語	2・3・4	2									
	フィットネス	1・2・3・4	1									
	哲学A(人間と社会)	1・2・3・4		2								
	哲学B(人間と自然)	1・2・3・4		2								
	文学A(日本)	1・2・3・4		2								
	文学B(世界)	1・2・3・4		2								
	芸術学A(前近代)	1・2・3・4		2								
	芸術学B(近現代)	1・2・3・4		2								
	政治学A(政治の制度と思想)	1・2・3・4		2								
	政治学B(現代日本の政治)	1・2・3・4		2								
	法学A(法とは何か)	1・2・3・4		2								
	法学B(法の体系)	1・2・3・4		2								
	経済学A(基礎)	1・2・3・4		2								
	経済学B(応用)	1・2・3・4		2								
	社会学A(社会学の基礎理論)	1・2・3・4		2								
	社会学B(現代日本の社会)	1・2・3・4		2								
	人文地理A(日本)	1・2・3・4		2								
	人文地理B(世界)	1・2・3・4		2								
	心理学A(基礎心理)	1・2・3・4		2			1			1	教員の調整による担当教員の変更(21) 担当 鎌田大輔(助教) 21年度担当教員の退職に伴う担当教員の変更(22) 担当 海保博之(兼担)	
	心理学B(臨床心理)	1・2・3・4		2			1			1	教員の調整による担当教員の変更(21) 担当 鎌田大輔(助教) 当初計画どおり担当(22) 担当 石崎一記(兼担)	
	環境科学	1・2・3・4		2								
	自然科学入門	1・2・3・4		2								
	情報演習A(情報発信)	1・2・3・4		2								
	健康科学	1・2・3・4		2								
	健康スポーツ	1・2・3・4		1								
	現代倫理学A(生命・生活)	1・2・3・4		2								
	現代倫理学B(環境・情報)	1・2・3・4		2								
	現代日本の歴史	1・2・3・4		2								
現代世界の歴史A(アジア)	未開講 1・2・3・4		2							担当教員辞任のため(23)		
現代世界の歴史B(欧米)	1・2・3・4		2									
日本国憲法A	1・2・3・4		2									
日本国憲法B	1・2・3・4		2									
国際関係論A(政治)	1・2・3・4		2									
国際関係論B(経済)	1・2・3・4		2									
現代日本の経済	1・2・3・4		2									
福祉社会論	1・2・3・4		2									
情報社会論A(技術)	1・2・3・4		2									
情報社会論B(生活)	1・2・3・4		2									

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通領域	ジェンダー論A(歴史と現状)	1・2・3・4		2								
	ジェンダー論B(男女平等社会)	1・2・3・4		2								
	地球環境問題	1・2・3・4		2								
	現代技術論	1・2・3・4		2								
	スポーツ科学	1・2・3・4		2								
	情報演習B(検定資格対策)	2・3・4		2								
	情報演習C(プログラミング)	2・3・4		2								
	情報演習D(画像処理)	2・3・4		2								
	キャリアデザイン実習Ⅰ	2・3・4		1								
	キャリアデザイン実習Ⅱ	3・4		3								
	小計(56科目)		19			0				0		
	小計(52科目)	—	11	91	0	2	0	0		1	0	
特設科目	日本語(現代文A)	1・2・3・4	1	1								平成21年度入学者から、日本語運用能力により履修選択できるように必修科目から選択科目へ変更した。(21)
	日本語(現代文B)	1・2・3・4	1	1								
	日本語(文法A)	1・2・3・4	1	1								
	日本語(文法B)	1・2・3・4	1	1								
	日本語(作文A)	1・2・3・4	1	1								
	日本語(作文B)	1・2・3・4	1	1								
	文章読解A	2・3・4	2	2								
	文章読解B	2・3・4	2	2								
	文章表現A	2・3・4	2	2								
	文章表現B	2・3・4	2	2								
	日本事情A(歴史・地理・時事)	1・2・3・4	2	2								
	日本事情B(政治・経済・文化)	2・3・4	2	2								
	小計(12科目)	—	18	0	0	0	0	0	0	0		
専門領域	心理学概説A	1・2・3・4	2			3		2				専任教員の死去、異動、産休及び育児休業による変更(21) 教授の新規採用、青木佐奈枝准教授の退職に伴う田村節子准教授への担当者変更、産休及び育児休業取得教員の復職に伴う変更(22) 専任教員の退職及び新規採用による担当者変更並びに職位の変更及び教育内容の充実を図るため担当者の追加(23) 教員間の調整による担当者の変更(22) 担当 山口正寛(助教) ※専任教員の異動による変更(21)。 ※専任教員の異動による変更(21)。 教授へ担当を変更(21) 担当 勝倉孝治(教授) ※専任教員の異動による変更(21)。 ※専任教員の異動による変更(21)。 産休及び育児休業による担当者の変更(21) 担当 羽鳥健司(兼任) 産休及び育児休業取得教員の復職に伴う変更(22) 担当 飯田順子(講師) 担当教員の職位変更(23) 担当 飯田順子(准教授) 産休及び育児休業による担当者の変更(21) 担当 羽鳥健司(兼任) 当初担当教員の産休及び育児休業取得に伴う変更、担当者未定。(22) 平成22年度休職教員の復職並びに職位の変更(23) 担当 飯田順子(准教授) 教員間の調整による担当教員の変更(23) 担当 根津 克己(准教授) 教員間の調整による担当教員の変更(21)。 担当 石村郁夫(助教) 担当 羽鳥健司(兼任) 教員間の調整による担当者の変更(22) 担当 石村郁夫(助教) 担当 山口正寛(助教) 当初担当教員の退職による変更(22) 担当 櫻村正美(兼任) 教員の新規採用による担当者の変更(23) 担当 阿部 宏徳(准教授)
	心理学概説B	1・2・3・4	2			5		1				
	生涯発達心理学A	1・2・3・4	2			7	4	2		3		
	生涯発達心理学B	1・2・3・4	2			1		2		2		
	臨床心理学A	1・2・3・4	2						1			
	臨床心理学B	1・2・3・4	2			1		1				
	心理学統計A	2・3・4	2			1						
	心理学統計B	2・3・4	2			1						
	心理学研究法A	2・3・4	2				1		1			
	心理学研究法B	2・3・4	2					1	1			
	心理療法概論A	2・3・4	2			1		1				
	心理療法概論B	2・3・4	2			1						
	心理学基礎実験	1・2・3・4	2				1			2	1	
	臨床心理査定法Ⅰ	2・3・4	2					1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備 考
			必修	選択	自	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専 門 領 域	臨床心理査定法Ⅱ	3・4	2				1 +					当初担当教員の退職による変更(22) 担当 櫻村正美(兼任) 教員の新規採用による担当者の変更(23) 担当 阿部 宏徳(准教授)
	臨床心理学実習Ⅰ	2・3・4	1				+			1		教育内容の充実を図るため、担当教員を追加(21)。 担当小林敦子(教授) 担当 羽鳥健司(兼任) 教員間の調整による担当者の変更(22) 担当 小林厚子(教授) 担当 山口正寛(助教) 小林厚子教授退職に伴う担当教員減(23) 他に2名担当教員がいるため支障はない。 教員間の調整及び教育内容の充実を図るための担当教員の変更及び追加(21) 担当 小林厚子(教授) 担当 鎌田大輔(助教) 担当 羽鳥健司(兼任) 鎌田大輔助教の退職による担当者の変更(22) 担当 小林厚子(教授) 担当 山口正寛(助教) 担当 羽鳥健司(兼任) 小林厚子教授の退職による担当者変更及び教員間の調整による担当教員減(23) 担当 飯田純子(准教授) 担当 山口正寛(助教)
	臨床心理学実習Ⅱ	3・4	1				+	1		1		小林厚子教授の退職に伴う担当者変更及び教員間の調整による担当教員減(23) 担当 飯田純子(准教授) 担当 山口正寛(助教)
	カウンセリング心理学A	1・2・3・4		2			+	1				教員間の調整による担当者の変更(22) 担当 田村節子(准教授)
	カウンセリング心理学B	1・2・3・4		2			+	1				教員間の調整による担当者の変更(22) 担当 田村節子(准教授)
	人格心理学A	2・3・4		2			+					小林厚子教授の退職に伴う担当教員の変更(23) 担当 吉田 富二雄(兼任)
	人格心理学B	2・3・4		2			+					小林厚子教授の退職に伴う担当教員の変更(23) 担当 齋藤 義浩(兼任)
	学習心理学A	2・3・4		2								
	学習心理学B	2・3・4		2								
	神経心理学	2・3・4		2								
	家族関係論A	2・3・4		2							1	教職課程再課程認定申請にあたり、専任教員を配置(21) 担当 石村郁夫(助教)
	家族関係論B	2・3・4		2				1				教職課程再課程認定申請にあたり、専任教員を配置(21) 担当 小林厚子(教授) 小林厚子教授の退職に伴う担当教員の変更(23) 担当 井上忠典(教授)
	社会心理学	3・4		2								
	家族心理学A	2・3・4		2								
	家族心理学B	2・3・4		2								
	産業心理学	3・4		2								
	認知心理学A	2・3・4		2								
	認知心理学B	2・3・4		2								
	学校心理学A	3・4		2				1			+	産休及び育児休業による担当者の変更(21) 担当 羽鳥健司(兼任) 産休及び育児休業取得教員の復職に伴う変更(22) 担当 飯田順子(講師) 担当教員の職位変更(23) 担当 飯田順子(准教授)
学校心理学B	3・4		2				1			+	産休及び育児休業による担当者の変更(21) 担当 羽鳥健司(兼任) 当初担当教員の産休及び育児休業取得に伴う変更、担当者未定。(22) 平成22年度休職教員の復職並びに職位の変更(23) 担当 飯田順子(准教授)	
発達臨床心理学A	2・3・4		2							+	届出時教員の退職による変更(21) 担当 臼井 東(兼任)	
発達臨床心理学B	2・3・4		2				1			+	届出時教員の退職による変更(21) 担当 石村 郁夫(助教) 教授へ担当者を変更(22) 担当 新井邦二郎(教授)	
精神医学A	3・4		2									
精神医学B	3・4		2									

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備 考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専 門 領 域	グループアプローチ特講A	2・3・4		2		1				1		配慮による担当教員の追加(21) 担当 鎌田大輔(助教) 21年度担当教員の退職に伴う専任教員減(22) ※専任教員の異動による変更及び教育上の配慮による担当教員の追加(21) 担当 鎌田大輔(助教) 21年度担当教員の退職に伴う専任教員減(22)	
	グループアプローチ特講B	2・3・4		2		1				1			
	英文講読	2・3・4		2									
	臨床心理学原書講読A	3・4		1									
	臨床心理学原書講読B	3・4		1									
	臨床心理学特講A	4		2									
	臨床心理学特講B	4		2									
						1							
	生涯発達心理学演習	3・4		2		1						※専任教員の異動による変更(21)。 新規採用教員の担当追加による変更(22) 担当 新井邦二郎(教授)	
	発達臨床心理学演習	3・4		2						1		届出時教員の退職による変更(21) 担当 石村郁夫(助教)	
	人格心理学演習	3・4		2		1	1					当初担当予定教員の退職による開講減。(22) 教員の新規採用による担当者の変更(23) 担当 阿部 宏徳(准教授)	
	学校心理学演習	3・4		2				2	1			産休及び育児休業による担当者の変更(21) 担当 齋藤義浩(兼任) 教育内容の充実を図るため開講増(22) 担当 田村節子(准教授) 平成22年度休職教員の復職並びに職位の変更(23) 担当 飯田順子(准教授)	
	カウンセリング心理学演習	3・4		2		1						教育内容の充実を図るため開講増(22) 担当 羽鳥健司(兼任) 國分康孝教授退職に伴う担当教員の変更及び開講減(23) 担当 勝倉孝治(教授)	
	臨床心理学演習	3・4		2		3	1	1				※専任教員の異動による変更(21)。 勝倉孝治教授 担当科目の変更に伴う開講減及び職位の変更(23) 担当 根津克己(准教授) 担当教員の職位変更(23) 担当 根津克己(准教授)	
	臨床心理学観察実習	4		2			1	1					
	倫理学概説A	1・2・3・4		2									
	倫理学概説B	1・2・3・4		2									
	福祉と行政	2・3・4		2								社会福祉に特化した講義内容を改定したことにより、廃止(21)	
	卒業研究	4		4		3	4	4	1		1	教職課程再課程認定申請にあたり、中教審より科目削除の指示があったため廃止(20) 専任教員の死去、異動、産休及び育児休業による変更(21) 新規採用教員の担当追加による変更(22) 専任教員の退職、新規採用教員の担当追加、平成22年度休職教員の復職並びに職位の変更(23)	
	卒業論文	4		4		3	4	4	1		1	専任教員の死去、異動、産休及び育児休業による変更(21) 新規採用教員の担当追加による変更(22) 専任教員の退職、新規採用教員の担当追加、平成22年度休職教員の復職並びに職位の変更(23)	
小計(56科目)				80	3	4			3				
小計(58科目)			32	86	4	4			2				
合計(124科目)			43	189	7	4			3				
合計(122科目)			61	177	7	4			2		学科総計124科目 学科総計126科目		

- (注) ・ 届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
・ 届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成22年度に届出された大学等は届出時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
・ 「配当年次」について、届出時に開講時期を記載する必要がなかった学部等(平成19年度届出以前)についても、届出時の状況を黒字で記載してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても、「(1)授業科目表」にはその状況を反映させてください。(ただし、「(3)未開講科目」欄には記載する必要はありません)。

(2) 授業科目数

届出時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 27	科目 87	科目 0	科目 114	科目 27 [0]	科目 85 [Δ2]	科目 0 [0]	科目 112 [Δ2]	
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	外国人留学生等特設科目履修者
科目 35	科目 87	科目 0	科目 122	科目 27 [Δ8]	科目 97 [+10]	科目 0 [0]	科目 124 [+2]	

(注)・未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：Δ1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	現代世界の歴史A(アジア)	2	1・2前	一般	選択	担当教員の退職による未開講。他の選択科目が多数あるため、代替措置は行っていない。

(注)・届出時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。(ただし、未開講科目があった場合は、(1)「授業科目表」にその状況を反映させてください。)

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	福祉と行政	2	2・3・4	専門	選択	教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程認定[教科に関する科目]の見直しに伴い、平成21年度より廃止した。なお、当初計画の教育課程(平成20年度入学者)の卒業を待って廃止とする。
2	福祉社会学	4	2・3・4	専門	選択	教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程認定[教科に関する科目]の見直しに伴い廃止した。

(注)・届出時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>未開講科目について</p> <p>本年2月、担当教員は本年4月から他大学の専任教員就任が決定したため、退職の申し出があった。後任については、時期的に困難と判断し、また、他の選択科目も多数あることから未開講とした。</p> <p>学生への周知は、学生に配布する授業時間割表に掲載するとともに、4月当初のオリエンテーションで周知した。</p> <p>廃止科目について</p> <p>「福祉と行政」及び「福祉社会学」は、教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程認定(取得免許状種類：中学校一種(社会))の見直しに伴い、廃止した。</p> <p>なお「福祉と行政」については当初計画の教育課程(平成20年度入学者)の卒業予定年度まで開講予定とし、平成20年度入学者には年度当初のオリエンテーションにおいて説明のうえ、周知している。</p>

(注)・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「届出時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{届出時の計画の授業科目数の計}}$	=	0.02
---	---	------

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	・子ども学部、経営学部(東京都北区)は東京成徳短期大学と共用。 ・借地面積:7,386㎡(千葉県八千代市)〔貸与者〕 伊藤庸雄4,081㎡ 伊藤博道3,305㎡ 借用期間:平成4年6月1日から20年			
	校舎敷地	79,282㎡(7,386㎡)	16,355㎡	0㎡	95,637㎡(7,386㎡)				
	運動場用地	47,056㎡(0㎡)	20,374㎡	0㎡	67,430㎡(0㎡)				
	小 計	126,338㎡(7,386㎡)	36,729㎡	0㎡	163,067㎡(7,386㎡)				
	そ の 他	0㎡(0㎡)	0㎡	0㎡	0㎡(0㎡)				
	合 計	126,338㎡(7,386㎡)	36,729㎡	0㎡	163,067㎡(7,386㎡)				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	図書館、体育館等を含む ・共用17,091㎡は、子ども学部、経営学部と東京成徳短期大学が共用。共用する他の学校等の専用は、東京成徳短期大学。				
	22,189㎡ (22,189㎡)	17,091㎡ (17,091㎡)	937㎡ (937㎡)	40,217㎡ (40,217㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 子ども学部、経営学部は東京成徳短期大学と共用。 講義室19室、演習室26室、実験実習室17室、情報処理学習施設4室、語学学習施設1室。			
	47室	38室	41室	7室 (補助職員 1人)	1室 (補助職員 1人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点		
	応用心理学部	34,486[8,021]	135[60]	0[0]	303	467	9		
	計	34,486[8,021]	135[60]	0[0]	303	467	9		
(6) 図 書 館	面 積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数				
	㎡								
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	㎡								
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	「教員教員1人当り研究費等」について、平成21年度予算編成において1割削減となったため減額(21) 「設備購入費」について、在学生実数に基づくコスト削減の取り組みによる減額(21) 平成21年度入学者から年度の納付額を変更(21) 平成23年度入学者から年度の納付額を変更(23)
		教員1人当り研究費等	405千円		図書購入費	3,270千円	3,378千円	5,219千円	
		共同研究費等	450千円	450千円	設備購入費	3,400千円	3,400千円	3,400千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,345千円	1,025千円	1,025千円	1,025千円	— 千円	— 千円		
		1,385千円	1,040千円	1,040千円	1,040千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		国庫補助金及び学園積立資金を充当する。							

- (注)・届出時の計画を、届出書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成23年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(23)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	東京成徳大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	・平成22年度より定員変更(60→40人、平成24年度より編入学定員4→1人) ・平成22年度より定員変更(専攻廃止により90→40人、平成24年度より編入学定員6→1人) ※平成22年度より国際言語文化学科の専攻廃止に伴う学生募集停止
	年	人	年次人 3年次	人		倍			
人文学部 日本伝統文化学科	4	40	4	208	学士(日本伝統文化)	0.69	平成13年度	千葉県八千代市保品字中台谷2014番	
国際言語文化学科	4	40	1	80	学士(国際言語文化)	0.65	平成13年度		
英米言語文化専攻	4	—	—	—	学士(国際言語文化)	—	平成13年度		
アジア言語文化専攻	4	—	—	—	学士(国際言語文化)	—	平成13年度		
観光文化学科	4	70	3	140	学士(観光文化)	0.24	平成22年度		
応用心理学部 健康・スポーツ心理学科	4	50	4	154	学士(健康・スポーツ心理学)	1.12	平成21年度	東京都北区十条台1丁目7番13号	
子ども学部 子ども学科	4	90	10	380	学士(子ども学)	1.13	平成16年度		
経営学部 経営学科	4	100	10	310	学士(経営学)	0.86	平成21年度		
大学の名称	東京成徳短期大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
言語文化コミュニケーション科	2	85	—	170	短期大学士(言語文化)	0.41	平成12年度	東京都北区十条台1丁目7番13号	
幼児教育科	2	180	—	360	短期大学士(幼児教育)	1.07	昭和41年度		

- (注)・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が、既に設置している全ての大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校の学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。
 (専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。)
 ・設置届出書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。
 ・「定員超過率」には、過去標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで(小数点第3位を切り捨て)を、学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)単位で記入してください。なお、学生募集停止を行った学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)の記載は不要です。
 ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「—」とし、「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調査時 (22年5月)	<p>○ 応用心理学部福祉心理学科、人文学部日本伝統文化学科、国際言語文化学科、観光文化学科、東京成徳短期大学言語文化コミュニケーション科の定員充足率が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、今後の定員の在り方について検討すること。</p>	<p>○応用心理学部福祉心理学科は、①学科ホームページの充実：卒業生の進路状況・進路の紹介、学科の目標の明確化など、②オープンキャンパスにおける広報：カリキュラム編成の解説、取得可能資格の説明など、③高校訪問の充実等々の取り組みを行ったものの、入学者は定員に及ばなかった。</p> <p>○人文学部日本伝統文化学科は、平成20年度の大幅な定員割れの対策として、実体験重視の学科として広報を行うことに重点を置き、①従来の学外研修を体系的に練り直す、②夏期フィールドワークの導入、③プロジェクト活動の充実、④博学連携授業の推進、⑤伝統文化マイスター制度の導入等の活動を行い、これらの活動を大学ホームページ、学科ブログ、報告書等の送付などにより募集につなげるべく活動を行った。</p> <p>また、22年度から入学定員を40名に変更し、これを機に、大学で学んだ伝統文化を社会に生かす、すなわち、就職への橋渡しおよび就職への学生のモチベーションを高めるために、カリキュラムを改変し、新たに文化マネジメント、出版およびメディア文化論等の科目を導入した。このことにより、就職につながらない文化系学科というイメージを打破したいと考えている。</p> <p>入学者は、21年度より若干増加したが、23年度は減少したため、さらなる対策が必要である。</p>	<p>○今後は、①高校訪問の検討：在学生の高校訪問計画、②指定校の検討：福祉系高校の指定校について、③学会認定資格である福祉心理士の資格取得についての広報等々を計画している。</p> <p>○平成22年度から導入した文化マネジメント等の新カリキュラムは、今年度から順次開講される。これらの科目の教育により、学生が社会に出てその一員として社会を支えてゆく力を養うとともに、学生が卒業時に自信を持って社会に踏み出せるように支援をしてゆく。このことがまた、受験生に対する学科の信頼を得ることにつながると思われる。</p> <p>従来の実体験重視の教育、少人数教育によるきめ細かな指導に加えて、新カリキュラムの教育等により就職を支援し、社会を支える人材を育てることを目指す学科の教育内容をしっかりと広報することにより、定員の充足を目指す。</p>

		<p>○人文学部国際言語文化学科は、平成22年度から専攻を廃止し、入学定員を40人に変更した。あわせて教育課程の変更も行い、(1)英語集中学習プログラム、(2)補習授業(自由科目)の設定、(3)留学制度の充実、(4)国際文科系科目群の設定などを骨子とした改善を行なった。また、定員減に伴い、よりきめ細やかな指導を目指している。これまで入学した学生への指導も予定通り順調に履行している。その結果、昨年度の定員充足率は6割であったが、本年度は7割とやや増加したものの、定員には及ばなかった。</p> <p>○人文学部観光文化学科は、平成23年度の入学者は21名で、定員70名を大きく下回った。平成22年度開設の準備段階からこのかた実施した幅広い広報活動にかかわらず、「観光文化」の学科コンセプトが十分に理解されなかったことなどに起因するものと思われる。</p> <p>○東京成徳短期大学言語文化コミュニケーション科については、社会情勢の変化を勘案し、平成24年度以降の学生募集を停止することが平成22年12月の学園理事会にて決定した。</p>	<p>○来年度は、定員確保できるよう、より一層受験生及び高等学校に対して本学科の特徴を効果的に周知を図りながら、定員確保に向けて努力を傾注したい。</p> <p>○平成24年度の学生募集において、多様な需要にこたえる人材養成をめざす学科コンセプトと、それぞれの進路に対応したカリキュラム構成などについて、高校生・高校教員の理解を得るべく、教員との交流・高校生フォトコンテスト・インターネット情報発信などの方法により、定員充足に努める。</p> <p>○該当なし</p>
--	--	---	--

(注)・「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料を添付してください。

- ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

(1) 設置計画変更事項等

<応用心理学部 福祉心理学科>

届出時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>① 定員変更</p> <p>入学定員 70人 3年次編入学定員 5人 収容定員 290人</p> <p>② 教育課程</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人留学生の卒業要件は、日本語運用能力によらず「特設科目」は必修とし、共通領域必修の「キャリアデザイン」「文章表現法」「英語会話」「総合英語」は除外していた。 <p>「共通領域」必修6科目11単位を含め34単位、 「特設科目」必修12科目18単位。計52単位。</p> <p>「専門領域」72単位、合計124単位以上。</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門教育(専門領域)課程を平成21年度入学者から変更した。 <ul style="list-style-type: none"> 専門教育(専門領域)課程を平成23年度入学者から一部変更した。 	<p>① 以下のとおり定員変更を行った。</p> <p>入学定員 50人(平成21年度から変更) 3年次編入学定員 3人(平成23年度から変更) 収容定員 206人</p> <p>人文学部であった平成15年度より続いてきた減傾向が、平成19年度入学者から定員割れ(41人)が生じ、平成20年度の見込みも厳しい状況であったため(入学者42人)、学科発足当時の入学定員50人に戻す措置をとり、編入学定員も近年の実績にあわせ、平成21年度開設の応用心理学部健康・スポーツ心理学科へ定員を振り替えた。</p> <p>しかしながら、平成21年度入学者は28人、22年度は37人、本年度は34人と定員割れの状況となっている。また、3年次編入学生については、近年2、3人程度が入学していたが、昨年度は0人、今年度は1人と厳しい状況となった。</p> <p>なお、状況、今後の見通しについては、平成22年度5月の設置計画履行状況調査の結果、定員充足率が0.7倍未満の留意事項が付されたため、「6 留意事項に対する履行状況等」に記述。</p> <p>② 教育課程</p> <p>平成21年度から外国人留学生の日本語運用能力により「特設科目」を履修するよう選択科目へ変更し、共通領域必修の「キャリアデザイン」「文章表現法」「英語会話」「総合英語」は教育課程に加え、卒業要件ではなく、以下のとおり履修方法として設定した。</p> <p>「共通領域」必修10科目19単位を含め52単位、「特設科目」履修者は12科目18単位を修得した場合、共通領域必修の「キャリアデザイン」「文章表現法」「英語会話」「総合英語」の8単位及び選択科目10単位と単位振り替えを行う。</p> <p>専門領域72単位、合計124単位以上。</p> <p>「2 授業科目の概要」において説明のとおり、社会福祉士法及び介護福祉士法の改正に伴う「社会福祉に関する科目を定める省令」(平成20年文部科学省令・厚生労働省令第3号)の施行、精神保健福祉法第7条第1の規定に基づく精神障害者の保健及び福祉に関する科目(平成20年5月12日厚生労働省告示第307号)により、本年度入学者から教育課程は大幅な変更となった。平成20年度入学者に対しては、社会福祉士、精神保健福祉士の試験は新課程の内容となるため、基本的に新科目の内容を学修して読み替えを行い、一部科目については、入学時の授業科目を開講する措置をとる。</p> <p>(別添1「応用心理学部福祉心理学科専門領域新旧対照表」参照)《平成21年度報告済み》</p> <p>専門教育(専門領域)課程を平成23年度入学者から変更した。教育職員免許法施行規則の一部改正に伴い、高校一種免許状「福祉」の教科に関する科目が追加となった。このため、既設の「介護技術概説」を廃止し、新たに「日常生活行動の理解と介護」を設けた。なお、平成22年度以前入学者に対しては新設科目を履修し、各々の教育課程の科目(21・22年度入学者は「介護技術概説」、20年度以前入学者は「介護概論」)に読み替える。</p>

<応用心理学部 臨床心理学科>

届出時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>① 定員変更</p> <p>入学定員 70人</p> <p>3年次編入学定員 5人</p> <p>収容定員 290人</p> <p>② 教育課程</p> <p>・ 外国人留学生の卒業要件は、日本語運用能力によらず「特設科目」は必修とし、共通領域必修の「キャリアデザイン」「文章表現法」「英語会話」「総合英語」は除外していた。</p> <p>「共通領域」必修6科目11単位を含め34単位、「特設科目」必修12科目18単位。計52単位。</p> <p>「専門領域」72単位、合計124単位以上。</p> <p>・ 専門教育(専門領域)課程を一部改定。</p>	<p>① 以下のとおり定員変更を行った。</p> <p>入学定員 70人</p> <p>3年次編入学定員 3人(平成23年度から変更)</p> <p>収容定員 286人</p> <p>編入学定員について近年の実績にあわせ、平成21年度開設の応用心理学部健康・スポーツ心理学科へ定員を振り替えた。</p> <p>3年次編入学生については、近年2、3人程度が入学していたが、平成22年度は定員5人に対して1人、23年度から定員を3人へ変更したものの入学者は1名となったため、定員確保に努めた。</p> <p>② 教育課程《平成21年度報告済み》</p> <p>平成21年度から外国人留学生の日本語運用能力により「特設科目」を履修するよう選択科目へ変更し、共通領域必修の「キャリアデザイン」「文章表現法」「英語会話」「総合英語」は教育課程に加え、卒業要件ではなく、以下のとおり履修方法として設定した。</p> <p>「共通領域」必修10科目19単位を含め52単位、「特設科目」履修者は12科目18単位を修得した場合、共通領域必修の「キャリアデザイン」「文章表現法」「英語会話」「総合英語」の8単位及び選択科目10単位と単位振り替えを行う。</p> <p>専門領域72単位、合計124単位以上。</p> <p>専門教育(専門領域)課程選択科目のうち、以下の2科目6単位を教育課程より削除した。</p> <p>①「福祉と行政」(半期科目・2単位)</p> <p>同学科に設置している教職課程(免許状種類:中一種(社会))の教科に関する科目(選択科目)として開講していたが、平成21年度より社会福祉に特化した講義内容に変更したため、</p> <p>(別添2「応用心理学部臨床心理学科専門領域新旧対照表」参照)</p>

- (注)・ 1～6の項目により記入した事項以外で、届出時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置届出書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

教員の資質の向上を図る組織として、平成10年度に「授業改革委員会(後の授業研究委員会)」を設置し、学生による授業評価や他の教員による授業参観などを通じて授業の自己点検・評価を実施し、授業方法の改善等を行ってきた。更に平成17年度に授業改善委員会(現 授業改善(FD)委員会)に改編し、教員のファカルティ・ディベロップメントの企画及び任務を加えた。

(別添「東京成徳大学人文学部・応用心理学部専門委員会規程」)

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

授業改善(FD)委員会は、年5回程度(平成21年度については3回)開催されるが、審議内容によってはE-mailより意見交換を行っている。委員は、学長が任命した委員長と各学科等の長が指名した7名の計8名で構成される。委員会はこれらの構成員がほぼ全員出席のもとに行われている。

c 委員会の審議事項等

授業改善(FD)委員会

- ・ 授業方法の改善に関すること
- ・ 教員のファカルティ・ディベロップメントに関すること
- ・ 学生の授業評価に関すること
- ・ その他委員会が必要と認めた事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 学生による授業アンケート
- ・ FDセミナー

b 実施方法

- ・ 学生による授業アンケートは全教員を対象として実施している。その結果は授業担当教員にフィードバックされ、教育指導や授業の改善に役立っているほか、これらを取りまとめて公表している。
- ・ FDセミナーは平成17年度から実施している。わかりやすく学生が興味を抱く授業の進め方、私語をしにくい環境の作り方、授業評価の分析、障害学生の教育面での配慮等、授業担当教員が指導上行った工夫やアイデアなどを紹介し、教育面の資質の向上に役立っている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 学生による授業アンケートは、全ての授業担当者(専任・兼任)を対象に2年ごとに実施している。

【平成21年度】

対象教員: 全教員(非常勤講師含む)

実施科目: 必修科目もしくは履修者が最も多い科目を選定

実施時期: 前期開講科目 7月、通年及び後期開講科目 1月

【平成22年度】

前年度前期及び後期に実施した授業アンケートの結果を授業改善(FD)委員会で取りまとめ、印刷物として公表予定である。

- ・ FDセミナーは毎年実施し、全専任教員が参加する。

【平成21年度】

第1回FDセミナー「FDフォーラム参加報告」平成21年7月2日(木) 全専任教員参加

第2回FDセミナー「授業アンケート結果の分析(1) 人文学部」平成22年1月21日(木) 全専任教員参加

第3回FDセミナー「授業アンケート結果の分析(2) 応用心理学部」平成22年2月4日(木) 全専任教員参加

【平成22年度】

FDセミナー「ミニシンポジウム“学生の多様化”をめぐる現状と課題」平成23年2月17日(木) 全専任教員参加

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

学生による授業アンケートの集計結果は、授業の改善等に役立っている他、これらは印刷物にとりまとめて教職員・学生に公開している。また、前述の分析結果はFDセミナーで発表し、教授方法の工夫・改善等の参考としている。

(注)・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

心理学の応用の新分野へ展開するための基盤整備を狙いとして、これまで人文学部に設置していた心理学系領域の福祉心理学科と臨床心理学科を、新たに設置した応用心理学部に移行した(平成20年4月)。そして心についてのより実用的で包括的な教育研究を行うことを企図して、平成21年4月に「健康・スポーツ心理学科」を開設した。これによって、心の幸福(福祉心理学科)、心の癒し(臨床心理学科)、心の元気づくり(健康・スポーツ心理学科)の技能の育成というコンセプトのもとでの教育研究が展開できるようになった。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

・平成22年7月公表(平成20年度及び21年度分)。平成22年度及び23年度分を平成24年7月に公表する予定。

b 公表方法

・自己点検・評価報告書を刊行し、関係者に配布。
・大学ホームページに公開。

③ 認証評価を受ける計画

・平成20年度に、財団法人日本高等教育評価機構による評価を受け、同機構が示すすべての評価基準項目について「基準を満たしている」との評価を受けた。
・次回の受審時期は、未定

(注) ・ 届出時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報提供に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成23年6月10日)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク (承諾する ・ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(<http://www.tsu.ac.jp/guide/license.html>)

(注) ・ 「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「d」に記入してください。

なお、「d」のリンク先のアドレスが未定の場合は、決まり次第、文部科学省高等教育局大学設置室あてに、メールにてご報告ください。

※大学設置室メールアドレス : d-secchi@mext.go.jp

件名は「【調査係あて】AC報告書等HPリンク先(〇〇大学)」としてください。